

LINE 公式アカウント始動!

友達募集中

LINE @240jojri

上記IDにて検索もしくは右記QRより友達追加!

Instagram

大阪南医療センターの日常をご紹介します!
ぜひフォローしてください♪

osakaminami_iryō

TOPICS

4月からの新診療体制について

2022年4月より、以下の通り診療体制が変更となりました。地域医療機関の皆様にはお手数をおかけ致しますが、ご確認のほどよろしくお願い申し上げます。ご不明な点などございましたらお気軽にお問い合わせください。次号は新任医師の紹介を掲載させていただきますので、ぜひご覧ください。

現在	2022年4月以降
リウマチ・膠原病・アレルギー科	リウマチ・膠原病科
呼吸器内科・呼吸器腫瘍内科	呼吸器・アレルギー内科
	腫瘍内科
血液内科 非常勤医師1名	常勤医師2名(部長1名、医長1名)

診療科 **NOW** 外科



中森 幹人

小澤 悟

田村 耕一

地域完結型の外科治療!



[外科の動画はこちら]

消化器外科部長 (食道・胃外科) ^{なかもり みきひと} 中森 幹人 外科医長 (肝胆膵外科) ^{おざわ さとる} 小澤 悟 外科医長 (大腸外科) ^{たむら こういち} 田村 耕一

広報誌「南窓」のご意見・ご感想をお聞かせください

広報誌「南窓」をお読みいただき、誠にありがとうございます。
お客様一人ひとりの声をより良い広報誌作りに活かしてゆきたいと考え、ご意見・ご感想を募集しております。
皆様からのご意見は、今後の改善を進める上で参考にさせていただきます。上記のURL または QRコードよりフォームにアクセスが可能です。
※ご意見・ご感想への返信はいたしておりません。ご了承ください。ご意見全てにはお答え出来ない場合がございます。予めご了承ください。

ご意見・ご感想はこちら ▶

<https://contact.osakaminamihosp.jp/>



大阪南医療センター 循環器疾患センター 胸背部痛、呼吸困難、動悸等 循環器疾患が疑われる際には緊急対応連絡先へご連絡ください。
24時間緊急対応 (ハートコール) 直通 Tel. 0721-53-3200



外科医の心(こころ)がこもった手術

外科はすべての消化器がん手術とヘルニアなどの一般外科手術を担当しています。外科のモットーは、高齢化が進む南河内医療圏の患者さんの心(こころ)に響く、「やさしい外科手術」です。現在は、堀内哲也がん診療連携総括部長のもとですべての領域において8名の専門医師が集結。それぞれの豊かな知見と技術を駆使したチーム医療で、体にやさしい「腹腔鏡下手術」を代表とする低侵襲手術から高度な技量が必要な拡大手術までを扱い、最先端の外科治療にも取り組んでいます。

今後も最新の手術方法や治療方法を積極的に導入し、「地域がん診療連携拠点病院」として、南河内医療圏にお住まいのすべての消化器外科患者さんと開業医の皆様のニーズに応え続けてまいります。



単孔式虫垂切除



開業医の先生と垣根のない連携

中森 当科では、南河内エリアの全ての消化器がんを扱っています。具体的には、当院が誇る消化器科と密に診療連携し、早期がんから進行がんの外科治療、手術前後の化学療法を中心に、放射線治療の専門医や腫瘍内科医と協力した化学放射線治療、さらには遺伝子パネル検査による「がんゲノム療法」までを担当しています。

当科が特に力を入れているのは腹腔鏡手術を代表とする低侵襲手術ですが、肝・胆・膵がん手術のような進行がんに対しては拡大手術を行うことが可能です。

開業医の先生の皆様には、緊急手術にも対応するなど、全ての消化器がんに対して最適な手術方法を実践し、大学病院のような医療機関と比べても遜色のない外科治療をご提供出来るように日々精進している当科の特徴をご理解いただき、ぜひ、垣根のない連携をお願いしたいと思います。

診療連携の流れとしては、外科または消化器科を問わず、ご紹介頂ければと存じます。科の垣根を越えて迅速に診断と治療を行います。主に手術を必要とする患者さんを外科が担当していますが、少しでも早く患者さんを診ることが重要であるのはいうまでもありません。どうぞ、消化器系の疾患に関するどんなことでもご相談頂ければ幸いです。今後も、消化器がんの診断と治療において、先生方との連携をさらに強固にしたいと考えております。共に南河内医療圏の消化器がんや腹部救急外科疾患の医療に取り組んでまいりましょう。



鏡視下食道切除

“からだへの負担が少ない” 低侵襲手術

小澤 当科では低侵襲手術を積極的に導入しています。低侵襲手術は傷が小さいことで術後の痛みが軽減され、早期の回復が期待できます。特に南河内医療圏において、高齢化が急速に進んでおり、身体機能が衰えがちな高齢者には、低侵襲手術、つまり、“からだにやさしい手術”はメリットが大変大きいと考えています。腹腔鏡下手術を代表とする低侵襲手術は高度な技術を要しますが、当科には日本内視鏡外科学会技術認定医が5名所属しているため、安心して手術を受けることが可能です。

また、低侵襲手術の手術技術も年々進歩し、低侵襲手術が難しかった肝臓の部分切除やマイクロ波凝固術でも、適応を配慮しながら腹腔鏡下手術を選択できるようになりました。また近年、「4K腹腔鏡システム」を導入し、より精緻（せいち）な手術が可能となっています。当科では、「ロボット支援下消化器外科手術」について準備を開始したところです。近い将来に導入する予定です。

地域で唯一の「がんゲノム医療連携病院」

田村 当院は南河内地域で唯一の「がんゲノム医療連携病院」に指定されています。「がんゲノム医療」とは、「がん遺伝子パネル検査」とその分析をがんゲノム医療拠点病院（当地域では近畿大学病院）と連携して、結果に基づきそれぞれに適した治療方針の選定を行うことです。

がん遺伝子パネル検査の対象となるのは再発や転移を来たしたがん患者さんです。当院では、現在324種類の遺伝子を調べ、標準治療以外の薬剤の検索、臨床試験に参加できる可能性があるかなど、より細やかなテーラーメイド治療の提供を目指しています。また呼吸器科、婦人科など他科や他院に通院中の患者さんも専門外来を通して、相談・検査の実施を行っています。

がん遺伝子パネル検査を含むゲノム医療は日進月歩で進化しています。これからのがん治療の一翼を担う分野であり、私達もさらに力を尽くしたいと考えています。



開腹結腸切除



ロボットによる自動化を推進し

調剤の安全性と効率性をより高度なものに



「薬剤部の動画はこちら」

こかわ としのり
薬剤部長 粉川 俊則

たじ あきひろ
副薬剤部長 田路 章博

やまにし かおり
副薬剤部長 山西 香織

対人業務のさらなる充実を図る

粉川 薬剤部ではロボット等の機器による調剤業務の自動化を推進しており、今年3月には「散薬調剤ロボット」を導入しました。これは、電子カルテからのデータにより自動的に必要な散薬を正確に量り取り、必要な包数に分包する機器であり、散薬の補充や分包後の確認は必ず薬剤師が行いますが、それ以外の作業をすべて自動で行ってくれます。他に注射薬自動払い出し機も活用しており、これらを用いた業務の自動化により新たに作り出した時間を、対人業務、すなわち患者さんへの服薬指導や副作用モニタリングなどの薬学的ケアの充実にあてています。

また、厚生労働省の通知を踏まえ、「疑義照会事前合意プロトコル」の実施を促進しています。これは、あらかじめ当院医師と薬剤師が疑義照会について事前合意を行い、当院の処方医だけでなく薬局薬剤師の疑義照会に係わる負担も軽減して、より安全で適正な薬物治療の推進に寄与するものです。

このような院内でのさまざまな取り組みとともに、地域においては調剤薬局との「薬業連携」を推し進め、患者さんの入退院に際し、開業医の先生方の薬物治療を適切に支援することも、我々の重要な役割であると考えています。



粉川 俊則

入退院時のシームレスな薬物治療実践のために

田路 薬剤部では河内長野市薬剤師会との「薬業連携」に積極的に取り組んでいます。河内長野市薬剤師会との間で定期的な勉強会を開催することにより情報交換・情報共有を図るとともに、協力関係を強くし、要望などを忌憚なく言える関係を構築しています。このように良好な薬業連携は、開業医の先生方が診察されている患者さんが当院に入院され、

また退院される際に、その薬物治療のシームレスな移行を促す上で、とても有効だと考えています。

山西 当薬剤部は、入院予定の患者さんへの持参薬確認をほぼ全例で行うなど、幅広くこまやかな対人業務が特徴です。今後さらに様々な薬学的ケアを充実させていくため、検討を重ねています。



田路 章博

山西 香織



散薬調剤ロボット